

2012年3月期 第3四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2012年1月31日

代表取締役社長 赤尾 泰

© 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

社長の赤尾でございます。

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2012年3月期第3四半期の決算概要について説明いたします。

エグゼクティブサマリー

I. 2012年3月期 第3四半期決算概要

- 市況の悪化やタイ洪水影響などにより売上高は想定を下回るものの、営業損益は原価改善や費用削減施策により第2四半期比改善

II. 2012年3月期 通期業績予想

- 市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化などにより、売上高は前回予想を大幅に下回る見込み
- 売上減に対し、生産効率化や更なる費用削減施策を遂行するも、下期の営業損益及び当期純損益の黒字達成は困難な状況

こちらが本日の説明内容のサマリーでございます。

第一に、2012年3月期 第3四半期の業績につきましては、市況の悪化やタイ洪水影響により売上高は想定を下回るものの、営業損益は原価改善や費用削減施策により第2四半期比で改善しました。

第二に、2012年3月期 通期の業績予想につきましては、市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化により、売上高は前回予想を大幅に下回る見込みです。売上減に対し、生産効率化や更なる費用削減施策を遂行いたしますが、下期の営業損益及び当期純損益の黒字達成は困難になりました。

I. 2012年3月期 第3四半期決算概要

それでは、2012年3月期 第3四半期の決算概要について、説明いたします。

2012年3月期 第3四半期(10-12月期)決算概要

- 半導体売上高は、欧州や中国を中心とした市況悪化による需要減やタイ洪水影響などにより、前四半期比9%減の1,980億円と想定を下回った
- 一方、営業損益・四半期純損益は、売上減による利益減を、原価改善や費用効率化などでカバーし、前四半期比改善

2011年3月期		2012年3月期			
(単位:億円)	第3四半期	第2四半期	第3四半期	前四半期比	前年同期比
売上高	2,752	2,433	2,229	△205 (△8%)	△523 (△19%)
半導体売上高	2,444	2,182	1,980	△202 (△9%)	△464 (△19%)
営業損益	34	△101	△40	+61	△74
経常損益	11	△131	△36	+95	△47
四半期純損益	△176	△88	△24	+64	+152
1US\$=	83円	79円	77円	2円 円高	6円 円高
1ユーロ=	112円	113円	105円	8円 円高	7円 円高

4 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

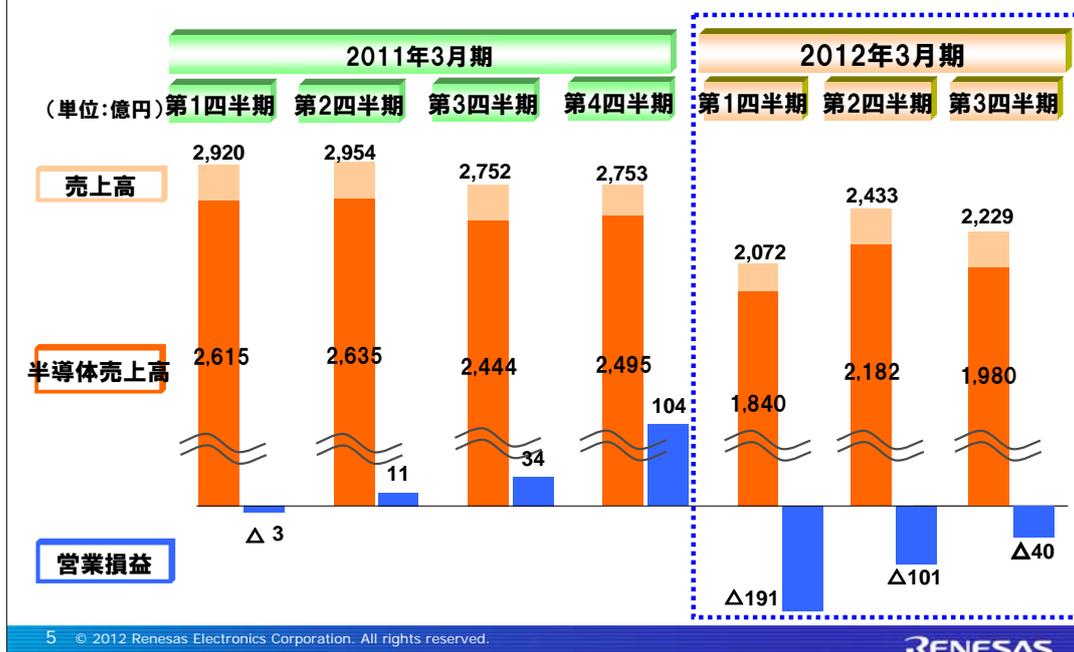
まず、第3四半期の実績のサマリです。

半導体売上高は、欧州や中国を中心とした市況悪化による需要減やタイ洪水影響により、前四半期比で9%減収の1,980億円となりました。これは、10月の第2四半期決算発表時の想定を下回る数値です。

営業損益は40億円の赤字、四半期純損益は24億円の赤字となりました。売上減による利益減があったものの、原価改善や費用効率化などでカバーし、営業損益・四半期純損益ともに前四半期比で改善しました。

四半期業績推移

■ 市況悪化などにより売上は伸び悩むも、震災を乗り越え損益は改善傾向



こちらが、四半期ごとの業績推移です。

第1四半期の半導体売上高は、被災工場の生産減を中心とした震災影響により、大きく減少しました。生産復旧に伴い、第2四半期の売上は回復しましたが、第3四半期では市況悪化などにより売上は伸び悩みました。ただし、損益については震災を乗り越え改善傾向となりました。

2012年3月期 第3四半期 半導体売上高の事業別状況①

- 欧州や中国を中心とした市況悪化やタイ洪水影響などにより、3事業とも民生・PC周辺機器・産業向け製品の売上が減少
- マイコンについては、自動車向けの伸びが牽引し、前四半期比で増収を確保

(単位:億円)	2011年3月期	2012年3月期			
	第3四半期	第2四半期	第3四半期	前四半期比	前年同期比
半導体売上高 計	2,444	2,182	1,980	△202 (△9%)	△464 (△19%)
マイコン	939	875	886	+12 (+1%)	△52 (△6%)
アナログ&パワー 半導体 (A&P)	730	672	545	△127 (△19%)	△184 (△25%)
SoC	761	632	534	△98 (△15%)	△227 (△30%)
その他半導体	15	3	14	+11	△1

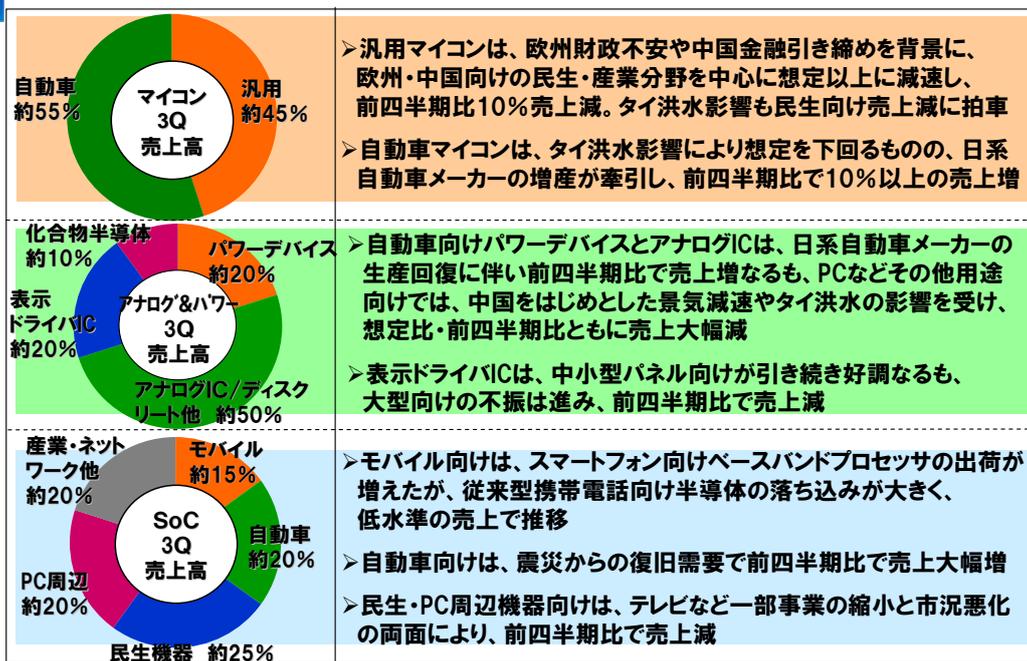
6 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

続いて、第3四半期の事業別の半導体売上高です。

市況悪化やタイ洪水影響により、3事業とも民生・PC周辺機器・産業向け製品の売上が減少しました。ただし、マイコンについては、自動車向けの伸びが牽引し、前四半期比で増収を確保しました。

2012年3月期 第3四半期 半導体売上高の事業別状況②



7 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

7ページは、第3四半期の各事業別の売上について、更に分野別での状況を示したものです。

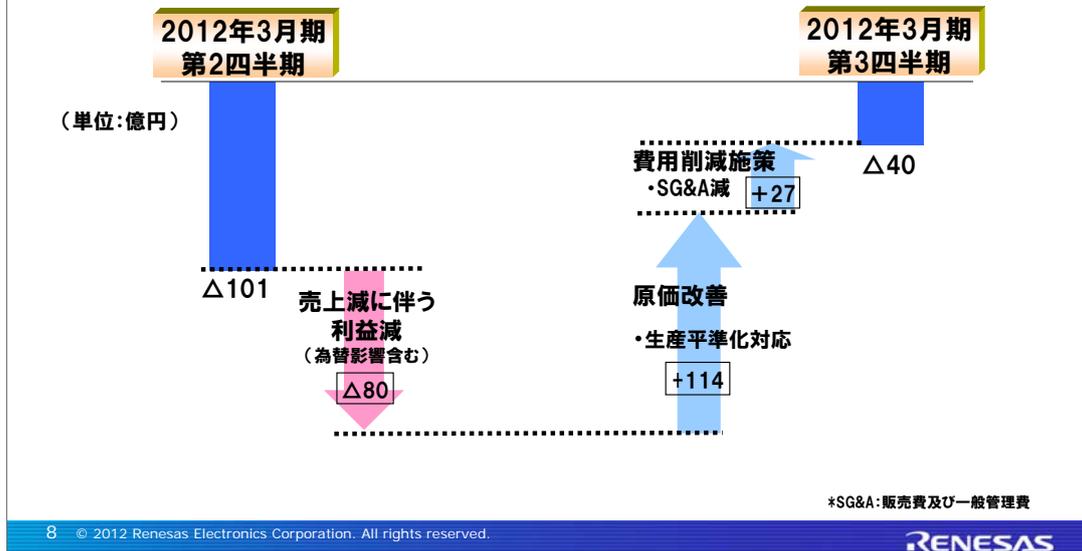
マイコンは前四半期比で増収でしたが、汎用マイコンは、欧州・中国向けの民生・産業分野を中心に想定以上に減速し、前四半期比で10%売上減となりました。一方、自動車マイコンは、タイ洪水影響があったものの、日系自動車メーカーの増産が牽引し、前四半期比で10%以上売上が増えました。

アナログ&パワー半導体においては、マイコンと同様に、自動車向けパワーデバイスとアナログICは、前四半期比で売上増になりました。PCなどその他用途向けでは、景気減速やタイ洪水の影響を受け、想定比・前四半期比ともに売上大幅減になりました。

SoCにおいても、自動車向けは前四半期比で売上大幅増となりました。モバイル向けは、スマートフォン向けベースバンドプロセッサの出荷が増えましたが、従来型携帯電話向け半導体の落ち込みが大きく、低水準の売上に留まりました。民生・PC周辺機器向けも、テレビなどの一部事業の縮小と市況悪化の両面により、前四半期比で売上減となりました。

2012年3月期 第3四半期営業損益（前四半期比）

- 売上減に伴う利益減を、生産効率化や販売費及び一般管理費の削減などの費用削減施策によりカバーし、営業損益は第2四半期比で改善



8ページは、第3四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

第3四半期は、売上減に伴う利益減があったものの、生産効率化や販売費及び一般管理費の削減などの費用削減施策によりカバーし、営業損益は前四半期比で約60億円改善しました。

バランスシートの状況

(単位:億円)	11/3末	11/9末	11/12末
総資産	11,450	9,177	9,017
うち 現金及び現金同等物	3,373	1,583	1,578
うち たな卸資産	1,234	1,386	1,577
負債合計	8,540	6,799	6,654
うち 有利子負債	3,782	2,656	2,633
株主資本	3,060	2,640	2,616
純資産合計	2,911	2,379	2,363
D/Eレシオ(グロス)	1.33倍	1.15倍	1.15倍
D/Eレシオ(ネット)	0.14倍	0.47倍	0.46倍
自己資本比率	24.8%	25.1%	25.3%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。
 ②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「1年内償還予定の新株予約権付社債」、「リース債務」、「長期借入金」
 ③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

9 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

9ページは、バランスシートの状況です。

現金及び現金同等物は、前四半期比ほぼ横ばいの1,578億円となりました。現金の適切な水準は、約2か月分の売上規模と考えています。現在の売上規模ですとこの水準を上回っています。

キャッシュ・フローの状況

■ 第3四半期のフリー・キャッシュ・フローは黒字を確保

(単位：億円)	2011年3月期			2012年3月期			
	第3四半期	9ヶ月累計 (4-12月)	通期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	9ヶ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	539	869	1,025	△292	80	180	△31
投資活動による キャッシュ・フロー	△390	△718	△958	△148	△178	△152	△477
フリー・ キャッシュ・フロー	150	151	67	△440	△97	29	△508

10ページは、キャッシュ・フローの状況です。

第3四半期について、営業キャッシュ・フローは、損益の改善などにより、前四半期比で改善して180億円の黒字となりました。

フリー・キャッシュ・フローについても、投資キャッシュ・フローの赤字をカバーし、震災以降初めての黒字を確保できました。

II. 2012年3月期 通期業績予想

次に、2012年3月期 通期業績予想について説明いたします。

2012年3月期 通期 連結業績予想

- 市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化などにより、通期の売上高を下方修正
- 売上減に対し、生産効率化や更なる費用削減施策を進めるものの、下期の営業損益、当期純損益は赤字となる見込み

(単位:億円)	2011年3月期		2012年3月期				
	上期実績	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し	通期前回予想	前回予想比(前期比)
売上高	5,875	11,379	4,506	4,344	8,850	9,680	△830 (△2.529)
半導体売上高	5,250	10,189	4,022	3,858	7,880	8,710	△830 (△2.309)
営業損益	7	145	△292	△188	△480	△280	△200 (△625)
経常損益	△78	10	△333	△207	△540	△370	△170 (△550)
当期純損益	△412	△1,150	△420	△150	△570	△400	△170 (+580)
1US\$=	90円	86円	81円	78円	78円	78円	-
1ユーロ=	116円	114円	115円	100円	105円	105円	5円 円高

第4四半期為替前提

*前回予想は10/31の
第2四半期決算発表時点

12 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

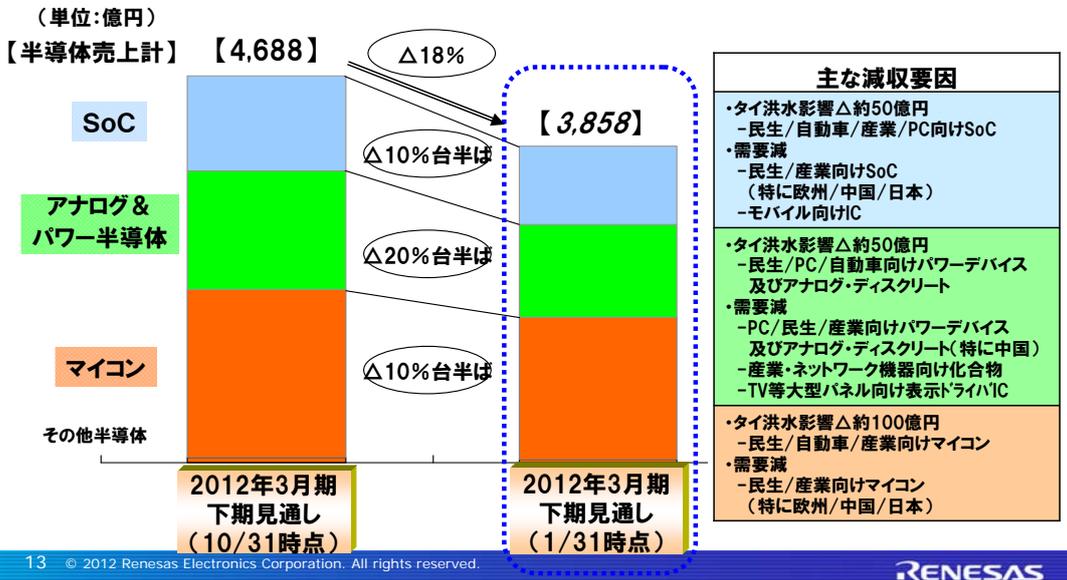
通期連結業績予想については、本日別途適時開示を実施しましたが、売上・損益ともに今回、下方修正いたしました。

通期の売上高は、10月の第2四半期決算発表時の予想から830億円下回る、8,850億円の見通しに変更しました。これは、前回予想時点から、世界経済の減速が継続していることによる、更なる半導体市況の悪化や、タイの洪水影響が顕在化したことなどによるものです。

こうした大幅な売上減に対し、生産効率化や更なる費用削減施策を進めるものの、下期の営業損益及び当期純損益は赤字となる見込みです。前回予想では、下期の当期黒字化を目標に掲げていましたが、大変残念ながら、その達成は困難になりました。

2012年3月期 下期半導体売上見通し（前回予想比）

■ 顕在化したタイ洪水影響△約200億円と、欧州や中国を中心に想定以上の速度で進んだ市況悪化に伴う需要減により、前回予想比で売上が△830億円の見込み



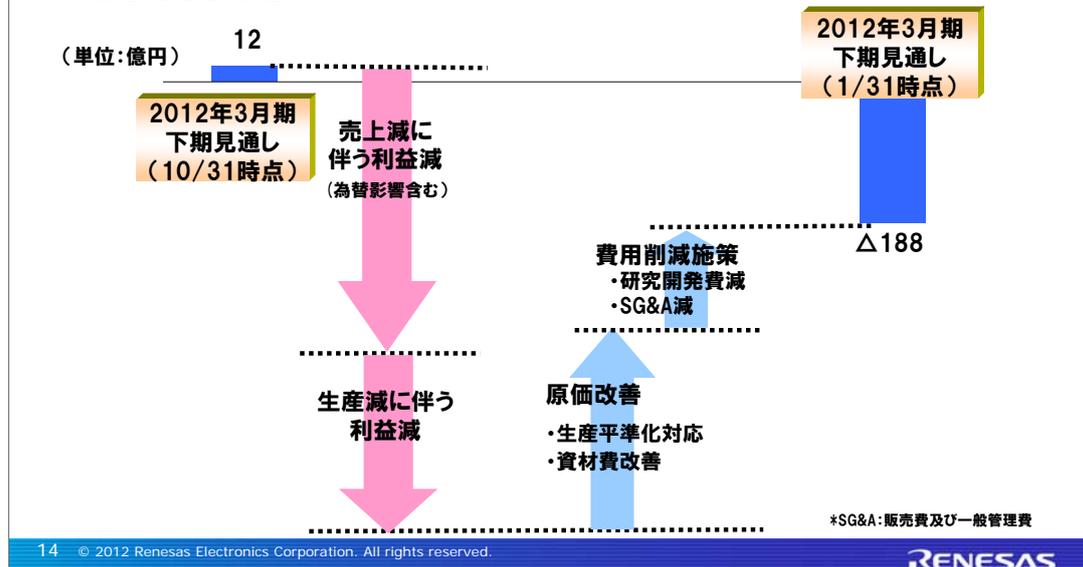
13ページは、前回予想と比較したときの、下期の事業別半導体売上の見通しについて示しています。

下期の半導体売上は、前回予想比で830億円減少の3,858億円を見込んでいます。830億円もの減収となる要因としては、タイの洪水影響が顕在化し、200億円の減収になることと、欧州や中国を中心に想定以上の速さで市況悪化が進み、需要が減ったことが挙げられます。

各事業においても、民生・自動車・産業・PC分野でのタイの洪水影響と、欧州や中国など向けの汎用製品の需要減が主な減収要因となりました。その結果、前回予想と比べ、マイコンとSoCは10%台半ばの減収、アナログ&パワー半導体は20%台半ばの減収を見込んでいます。

2012年3月期 下期営業損益見通し（前回予想比）

- 市況悪化継続やタイ洪水影響などによる需要減により、売上減に伴う利益減や、生産減に伴う利益減を見込む
- 更なる費用削減施策なども遂行するが、下期の営業損益は△188億円の赤字となる見込み

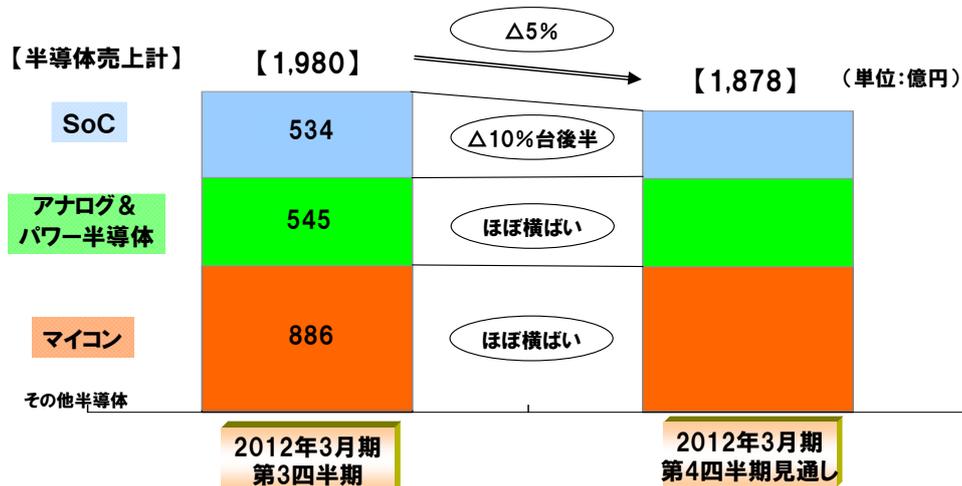


14ページは、下期の営業損益を、前回予想からの増減で示したものです。

前回予想時点から更に進んだ半導体市場の悪化により、売上減に伴い利益が大きく減ることに加え、生産減に伴う利益減も発生する見込みです。これに対し、更なる費用削減施策なども遂行いたしますが、下期の営業損益は188億円の赤字になる見通しです。

2012年3月期 第4四半期半導体売上見通し（前四半期比）

- 自動車向けは堅調なるも、マクロ経済の悪化に伴う汎用製品を中心とした需要軟化が続き、マイコン、アナログ&パワー半導体は前四半期比でほぼ横ばい
- SoCは、市況悪化だけでなく、事業の選択と集中により売上減の見込み



15 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

15ページは第4四半期の事業別の半導体売上見通しについて示しています。

第4四半期の半導体売上は、前四半期比5%減収の1,878億円を見込んでいます。

自動車向けは堅調ですが、汎用製品を中心とした需要軟化が続き、マイコン、アナログ&パワー半導体は前四半期比でほぼ横ばいとなる見込みです。SoCは、市況悪化だけでなく、事業の選択と集中もあり、売上減の見込みです。

2012年3月期 第4四半期営業損益見通し（前四半期比）

- 市況の悪化による需要減が続くことで、生産減に伴う利益減が拡大
- 通常は期末に集中する研究開発費などの費用計上の抑制を図るものの、第4四半期の営業損益は△148億円に悪化する見込み



16 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

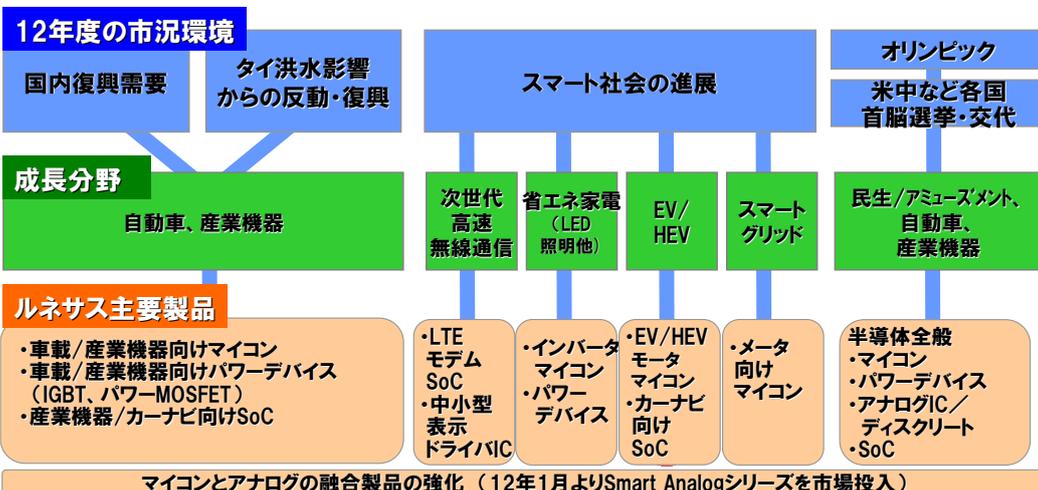
RENESAS

16ページは、第4四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

第4四半期でも、市況の悪化による需要減が継続するとの見通しから、売上減に伴う利益減に加えて、生産減による利益減の拡大を見込んでいます。通常では期末に集中する研究開発費などの費用計上の抑制を図るものの、結果として、営業損益は148億円の赤字に悪化する見通しです。

業績の改善に向けて（1）12年度以降の期待製品・分野

- 12年度の市況環境を展望すると、成長を期待できる分野が数多く潜在
- これら成長分野に対する選択と集中を加速し、利益確保可能な売上規模を獲得



*EV: Electric Vehicle、HEV: Hybrid Electric Vehicle、NFC: Near Field Communication

17 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

17ページからは、今後の業績改善に向けての、12年度以降の期待製品・分野と当社の取り組みをお話します。

12年度の市況環境を展望すると、オリンピックや各国首脳選挙などのイベントイヤーであるだけでなく、国内の震災からの復興需要などが見込まれることから、成長を期待できる分野が数多く潜在しています。当社では、これら成長分野に対して、世界No.1シェア実績もある、最適な製品を豊富に揃えています。

特に、近年発達したクラウド環境をベースに、省エネなどエコを志向したスマート社会が実現に近づくと考えています。スマートメータなどの新成長分野向けに、マイコン、アナログ&パワー半導体、SoCを組み合わせ提供いたします。こうした成長分野に対する選択と集中を加速し、利益確保可能な売上規模を獲得してまいります。

業績の改善に向けて（２）マイコンとパワーデバイスの強化

- 成長分野に向けて、マイコンとパワーデバイスのラインアップを強化
- マイコン：中国市場向けに3年間で1,000製品投入の計画、11年度末までに約7割市場投入予定
- パワーデバイス：高圧品を中心に3年間で1,000製品投入の計画、11年度末までに約7割市場投入予定

2010～2012年度 分野別市場投入予定製品数



18 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

また、当社は市場の成長に期待するだけでなく、更なる攻めの取り組みとして、マイコンとパワーデバイスのラインアップを現在強化しています。

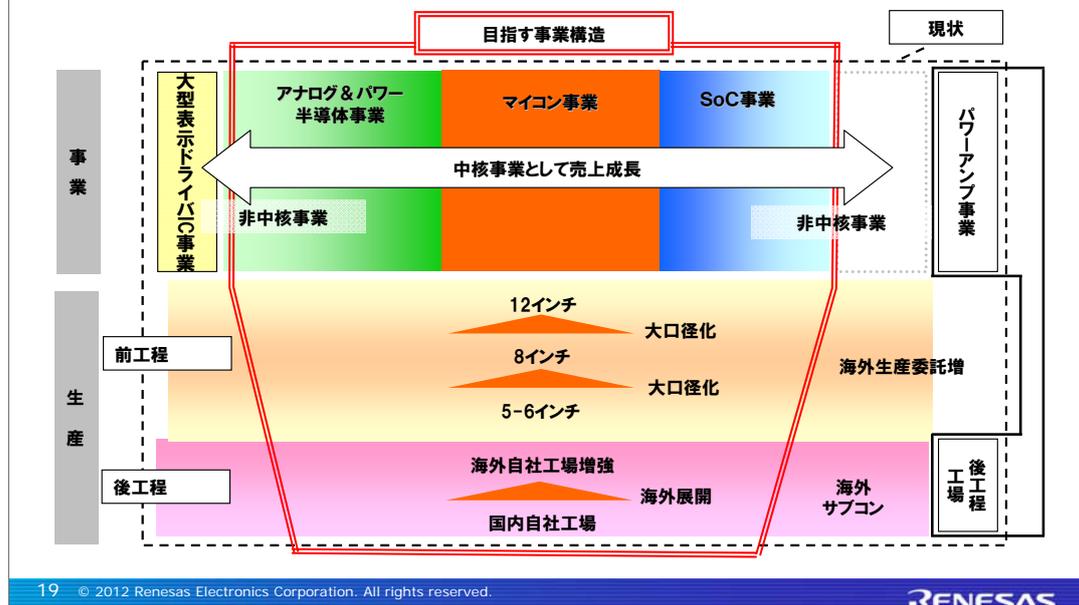
マイコンは、中国を中心とした新興国市場向けに3年間で、各成長分野向けに合計で1,000製品を投入する計画であり、11年度末までに約7割市場投入する予定です。

また、パワーデバイスでは、高圧品を中心に、マイコンと同様、3年間で1,000製品投入する計画であり、11年度末までに約7割市場投入する予定です。

成長市場において更なるラインナップ強化を進め、確固たるポジションを確保することで、売上げ面においても景気動向に左右されにくい体質の強化を進めていきます。

業績の改善に向けて（3）事業・生産構造対策

- TV等フラットパネル市場の構造変化による採算悪化が続いていた大型表示ドライバIC事業からの撤退を決定



19 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

引き続き、業績改善に向けた当社の取り組みとして、事業・生産構造対策の進捗についてお話しします。

19ページでは、8月の事業方針説明でもお示した、当社が目指す事業構造を再掲しています。

安定成長と高い収益力を実現するために、当社では現在、事業面及び生産面での構造対策を進めています。事業面では、SoC事業、アナログ&パワー半導体事業の内、非中核事業について、縮小・撤退を行っていく計画です。

既に、SoCのパワーアンプ事業を村田製作所に譲渡することを発表しておりますが、今回新たに、採算悪化が続いていた大型表示ドライバIC事業からの撤退を決定しました。今後も計画通り、構造対策を進めてまいります。

まとめ

- **2012年3月期第3四半期業績は、市況の悪化等により売上は計画を下回るも、損益は前四半期比改善**
- **通期の業績予想については、市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化などにより、売上、損益ともに下方修正**
- **安定的に利益を出せる事業体質を目指した構造対策を引き続き推進すると共に、市況の回復を的確に捉え、早期の業績回復を目指す**

最後にまとめです。

2012年3月期第3四半期業績は、市況の悪化等により売上は計画を下回るも、損益は前四半期比で改善しました。

通期の業績予想見通しについては、市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化などにより、売上、損益ともに下方修正しました。

そこで、安定的に利益を出せる事業体質を目指した構造対策を引き続き推進すると共に、市況の回復を的確に捉え、早期の業績回復を目指してまいります。

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。



2012年3月期第3四半期の決算概要のご説明は以上でございます。本日は有難うございました。